第３学年３組　図画工作科学習指導案

指導者　教諭　堀江　昌代

１　題　材　名　　　　　ダンボールでへんしん

　　　　　　　　－見立て造形遊びから思いの表現へ，表現から鑑賞へ－

２　目　　　標

目　　　標	評価の観点			
	関心	発想	造形	鑑賞
素材に関心をもち，進んで表し方を工夫し，楽しく製作しようとする。	○			
素材の特性について理解し，自分の思いを表現するための工夫ができる。		○		
身辺材のよさを生かす組合せや切断･接着の工夫により，適切で効果的に製作し，自分の思いに合ったものをつくることができる。		○	○	
自分や友人，作家のダンボール作品を鑑賞し，素材のよさ，表現の面白さを感じ取ることができる。				○

３　題材の指導に当たって

　本題材は，素材の造形遊びから始まり，自分の表したい題材をダンボールの素材の面白さにより探求していくものである。題材の中に素材が生きる様々な工夫やワンポイントの鑑賞を短時間で位置付けることで，段階的に表現に広がりや深まりをもたせていくものである。

　本学級は，男子 16 名，女子 15 名，計 31 名。図工を好きと答える児童が 7 割，授業中も活発で，広汎性発達障害の児童を含め，積極的に活動に取り組むことができる。また，こつこつと製作に励み丁寧に作品を仕上げることのできる児童もいる一方，すぐに飽きて粗雑になる児童もおり，製作にかける個人の時間差と作品の達成度の差は大きい。そのため，個々の能力に対応できるような支援が必要であると考える。

　今回，３年生では見立て遊びからの造形遊びを扱うが，素材をいかに豊かにとらえることができるかを，ワンポイント紹介タイムやミニ鑑賞会で情報を得ることにより深めたい。ダンボールによる「折る・切る・ちぎる」等の表現の工夫を「わざ」として取り上げ，自分の選んだ題材の具体的なイメージに迫るようにしたい。また，限られた授業の中で素材のよさを学ぶために短時間で素材と親しむ機会を「見立て遊び」（やぶり遊び）を発端にして，「クミクミックス」（切り込み遊び）のように段階的に設けることによって，より多くの素材感も体験できるようにする。実際には，素材にかかわる体験を表現の追求に役立つものとして選んでおく必要がある。作品完成後は，自分の選んだ題材を紹介したり，友人のそれぞれの作品を鑑賞したりすることで，さらに児童の図工への意欲を高めたい。

４　指導計画（６時間扱い）

　第１次　手を使った見立て遊びを通して，素材への意欲をもつ。・・・・・・・・・・・・・１時間

　第２次　素材の特徴を生かしながら，自分の選んだ題材を表現する。・・・・・・・・・・４時間

　　第１時　自分の選んだ題材から，見通しをもって製作する。

　　第２時　刃物などの扱い方を通して，「組む」技から作品つくりをする。

　　第３時　全体のイメージを予測して，折る・ちぎる・切る・組むなどの技法を組み合わせて製作する。（本時）

　第３次　伝えたいことや表したい題材を発表し，お互いの作品のよさを鑑賞する。・・・１時間

５　本時の指導

（１）目　標

　素材の特徴を生かした表し方を工夫しながら，自分の思いを作品にする楽しさを味わうことができる。

（２）準備・資料

　児童：筆記用具，はさみ

　教師：参考作品，児童作品，ワークシート，自己評価カード，麻ひも，セロハンテープ，カッターナイフ，ダンボールカッター，カッターマット，リサイクルはさみ，ホットメルトガン，粘着テープ，ダンボール

（３）展　開

学習活動・内容	形　態	指導上の留意点・評価（評は評価）
1　本時の学習内容を確かめる。 （１）前時の学習内容を振り返り，自らの本時の課題を確認する。 （２）本時の学習の流れを確認する。 2 ダンボールでの製作をする。	一　斉 個　人	・ダンボールを量・種類を変えて多く用意し，多様な表現に応じられるようにする。 ・全体でお互いの表現したいイメージを確かめ，グループで相談し合ったり，前時までの活動を振り返ったりしながら，意欲的に製作に取りかかることができるようにする。 ・前時の作品を用意することで，イメージをもちやすいようにする。
わざを使って，ダンボールをへんしんさせよう。		
(1)　自分のイメージを多種の技術を使って製作する。 ・ちぎる ・切る（クミクミックス） ・曲げる ・折る ・組む（接着）	グループ 個　人	・前時までの素材が生きる「わざ」(ちぎる・切る・曲げる・折る・組む等)を大きく図示することにより，製作技術のヒントが学びやすいようにする。 ・材料や用具のコーナーは，各々が選択できるように場の設定を工夫する。 ・全体の作品イメージを意識させながら進められるように助言する。 ・ワークシートは，本時の中で容易に取り扱いできる程度のものとする。 ㊞評【関】素材に関心をもち，自分の思いを作品にする楽しさを味わおうとしている。（観察，作品） ・特に，強度・設置の工夫を考えにくい児童には，教師が視点を示し，理解しやすいようにする。 ・自分の表現の中の視点に気付くことができるように机間指導の中でも具体的に助言する。 ・ホットメルトガンによる接着を行う児童には，金属部分によるやけどなど危険のないように，図示して指導する。
(2)　ワンポイント紹介タイム	一　斉	・作者による説明が必要な場合には，「わざ」を紹介させていく。また，個々の作品に合わせた説明を回りながら教師が加えていくことで表現に深まりをもたせられるようにする。 ・１時間の中で見られた危険な場面に対するアドバイスがあった場合も併せて助言できるようにする。 評【造】素材の特徴を生かした表し方を工夫しながらつくっている。（観察，発表，作品）
3　自己評価カードに記入し，本時を振り返る。 ・ミニ鑑賞会	グル-プ 個　人	・鑑賞は，あくまで短時間で計画し，製作の時間が確保できるようにする。 ・自己評価し，学習の成果を個別に確かめながら，次時の学習の課題へとつなげられるようにする。 ・自己評価カードは，短文で書くことにより，個々の進歩や悩みに対応できるようにする。
4　次時の準備物や学習内容を確かめる。	一　斉	・次時は，全体での鑑賞，さらに違う素材（木材）を取り上げていくことを伝える。